

日本から輸出された中古製品

写真・文 小島 道一
Michikazu Kojima



中古家電や中古自動車部品を扱っている店が並んでいるアラブ首長国連邦シャルジャ地区。中東、アフリカ地域への中継地となっている。日本をイメージする店名を付けているところがすくなくない（2006年12月）

発展途上国で、日本からの中古製品を見かけることが少なくない。初めて意識したのは、一九九一年にマニラで、「豊島園」行きの都バスをみかけたときだった。そのときは、写真を撮れなかったが、強く印象に残っている。二〇〇二年以降、家電や自動車のリサイクルに関する研究を進めるなかで、中古品として先進国から途上国に渡っている製品についても、調査の対象としてきた。

日本から輸出されている中古品としては、バス、トラック、乗用車、電車といった輸送機械やその部品、農機、工作機械、ミシン、編み機などの生産のための機械、繊維製品、テレビ、冷蔵庫、エアコン、ラジカセなどの家電製品、コンピュータ、携帯電話などのIT機器などがあげられる。

日本側の中古品の供給ルートは、いくつかの種類に分かれている。家庭で使われた家電類は、トラックで回ってきたり、あるいは、一時的な引き取り場所を設けたりして、無料回収を行っている業者から、輸出業者へと渡っている。また、自治体が回収した粗大ごみを引き取り、国内での販売と輸出向けに仕分けしている業者もある。自動車の解体工場では、中古部品を買い集める外国人バイヤーが購入したい部品に印をつけたりする作業を行っている。コンピュータや建設機械はリースアップ品が輸出される。中古の建設機械や自動車については、オークションが行われており、外国人バイヤーも参加している。昨年一二月に訪問したミャンマーでは、中古車を買いたい顧客にミャンマーから日本のネットオークションに参加させるサービスを提供する商売が見られた。消費者は、たくさん選択肢のなかから自分の好みの車を選ぶことができ、また、販売店は、



買われていく日本の4ドア冷蔵庫（ベトナム・ハイフォン、2009年8月）



中古テレビを輸出用にコンテナに積み込む作業（大阪、2009年11月）



中古品として使われた後、部品取りをされる可能性のある重機（ベトナム、2007年7月）



中古家電の輸入ライセンスが出ていないミャンマーで販売されていたミシン。タイ経由で、携帯品としてミャンマーに入ってきているとみられる（ヤンゴン、2012年12月）

不良在庫を抱えるリスクを減らすことができる。新しいタイプのビジネスといえよう。

多くの輸入中古品は仕入れ価格が安く、低所得者層でも手が届く値段で売られている。放送方式が一緒であったため大量に中古ブラウン管テレビが輸出されてきたフィリピンでは、初めて買ったテレビが日本からの中古品であるという家庭も少なくないだろう。輸入中古テレビを購入し家族が喜ぶ様子が、日本のテレビ番組でも放送されたりしている（例えば「素敵な宇宙船地球号」二〇〇八年七月）。日本で使われていた中古品の評価は、総じて高い。共同研究を実施したフィリピン大学の先生は、ドアの多い冷蔵庫は、輸入中古品でしか手に入らないと言っていた。途上国では手に入らないモデルが中古品だと入手可能な場合がある。

また、日本で使われていたことが、製品の信頼性の証となっている。建設機械やバスなどで、日本語の会社名をそのままにして使用されているのを目にすることが少なくない。業者によると、再利用した後、ふたたび、中古品として販売する場合に、日本から来たものだとかると値段を高くできるため、わざと日本語を残しておく場合があるという。時には、ペンキで塗りなおした上から、日本語らしき文字をわざわざ入れ直している場合もある。マニラで「豊島園」行きのバスがそのまま走っていたのも理由があつたことだった。

さまざまな生産のための資本財が十分でない途上国では、中古品の購入は、安価な資本財の入手手段といつてよい。JICAに勤め、アフリカに赴任した友人は、インフラが整っておらず、また、インフラを整えるための機械も十分でない途上国では、イ



日本からインドネシアに輸入されたトラック。日本語表記を残したまま販売されていく（ジャカルタ、2004年9月）



日本の中古車の輸出前検査がされたことを示すステッカーがフロントガラスの右上の部分に、貼られている中古車（ケニア・ナイロビ、2006年12月）

ンフラ整備のために中古建設機械はかせないと述べていた。数年前、ベトナムで聞いた話では、輸入される建設機械一万一〇〇〇台のうち、新品は六〇〇台に過ぎないということだった。中古建設機械が途上国のインフラ建設を担っている。また、編み機やミシンなども、所得の向上につながっている。中古品は、技術の取得のきっかけとなっているケースもある。ベトナムでインタビューしたDVDプレーヤーの製造業者は、中古家電の輸入販売からはじめ、家電の修理技術の取得し、修理のための部品調達先として中国の業者とのつながりができた。その後、中国からの仕入れた新品の部品を使って、DVDプレーヤーを製造するようになったという話だった。中古品の輸入・販売から、製品の組み立てを行える企業に成長した例である。

中古品は、国際的に取引され、利用されている一方、途上国やNGOから、中古品が廃棄物の増大を招き、廃棄物による環境汚染の増大につながると懸念する声がある。実際に、途上国では、鉛バッテリーや家電などから、金属類を回収する過程で環境汚染が生じており、中古品名目で、直接、金属回収にまわされるような廃棄物が輸入されることは問題と考えている国が少なくない。また、製造業の発展を損なうという懸念が表明されていることもある。国によっては、何らかの規制を導入する場合もあれば、全面的に中古品の輸入を禁止する場合もある。製造後五年以内のみなど、製造後の一定の年数以内の中古品のみ輸入を認める、一方、古いものは輸入を認めないという規制をしているところもある。また、輸出前に使用できるかどうか検査を要求するといった規制や、輸入の際にかかる税金を製造後の年



入荷した廃自動車の部品に買い取り希望のサインをいれる外国人バイヤー（大阪の自動車リサイクル工場、2004年9月）



ミャンマーのヤンゴンで見かけた高知の学校の体操服（？）（2012年12月）

主著に、小島道一編『国際リサイクルをめぐる制度変容』
アジア経済研究所、2010年。

数にに応じて変えるといった規制がなされている。
国際的には、有害廃棄物の越境移動の規制をして
いるバーゼル条約のもとで、中古家電と廃家電を区
別するためのガイドラインを作る作業が始まってい
る。一方、中古品を分解し、修理・部品の入れ替え
等を行って再組み立てした再製造品をめぐる貿易規
制のあり方について、世界貿易機関（WTO）の非
農産品交渉の場を取り上げられている。このような
交渉の場には、中古品の流通を担ったり、中古品を
実際に途上国で使っている人の声は、なかなか届い
ていない。逆に、国際的な中古品の輸出入規制に関
する議論は、中古品の輸出入業者やユーザーには届
かない。研究者として、何ができるか、模索してい
るところである。



駐車場を一時的に借りて実施された家電等の無料回収
(千葉、2010年8月)



日本語のシールが残ったまま販売されていたパソコン。
リースアップ品（マレーシア・マラッカ、2009年1月）



輸入された中古テレビの修理、チューナーの調整、
変圧器の組み込みを行っているところ
(フィリピン・マニラ近郊、2007年2月)



電圧の違いを調整するためにエアコンの部品を
入れ替えている
(カンボジア・プノンペン、2013年3月)